

## 甦った古代復元住居

「古代復元住居」は、西都原考古博物館の一角にあります。古代復元住居は、昭和 41 年から実施された「史跡等環境整備計画（風土記の丘整備事業：国庫補助事業）」によって、旧西都原資料館の附属施設として設置されました。しかし、設置から半世紀近い歳月が経過し、茅葺き屋根の劣化が著しく、見学者への公開ができない状況となっていました。

そこで、当館では「甦れ！古代ロマン復元住居再生事業（平成 27～28 年度）」を実施し、県民参加型のイベントとして参加者を募り、地域の文化と技術の継承者（東米良匠の会）の協力を得て、屋根の改修を行いました。1 年目（平成 27 年度）は、屋根の材料となる茅を刈ったり、ヒノキを伐採して皮を剥いだりする作業を行いました。2 年目（平成 28 年度）は屋根の解体、骨組み作り、茅葺き作業を行いました。こうして2年の時を経て、平成 29 年 3 月から公開展示しています。

その後、この茅葺き屋根を長持ちさせるため、週 1 回の火入れを行っています。これまでに 24 回実施してきました。「火入れ」とは、住居内で薪を燃やすことで、その煙によって茅葺き屋根に虫が付くのを防ぎ、茅にすすが付着することで、防水性を高め、茅葺き屋根を長持ちさせるものです。

近年、茅葺き住居の火入れは珍しい光景ですので、多くの見学の方々が話しかけてこられます。ご年配の方は、懐かしさから、茅葺き屋根の建物の思い出などを話してくださいませ。私は、見学者の方々に「火入れ」を行う理由や茅葺き屋根の改修作業の様子などをお話しています。また、住居の周りでシートを広げてお弁当を食べたり、花見をしたりする方も見られ、憩いの空間にもなっています。

さらに今年度は、西都原考古博物館少年団も「古代住居で学ぼう！」というテーマで活動して



【設置当時の「古代復元住居」】  
昭和 43 年撮影



【改修前の「古代復元住居」】  
平成 27 年 4 月



【甦った現在の「古代復元住居」】  
平成 29 年 3 月

います。7月には、殺風景な住居の中を明るくするために「土面・土鈴づくり」をしました。9月初めにできあがった土面・土鈴は住居内に飾り付けました。

茅葺き屋根が完成した3月から、古代復元住居は少しずつ変化しています。毎日午前9時半から午後5時まで正面の扉を開けて公開しています。今後も火入れ作業は継続する予定です。タイミングがよければ、火入れの様子をご覧いただけます。ぜひ、西都原考古博物館、古代生活体験館に来られた際は「古代復元住居」にお立ち寄りください。

(田中敏雄)



【住居裏の木陰でお花見中】



【「火入れ」作業中】



【西側にベンチ、裏に薪】



【考古博少年団活動】



【少年団製作の「土面・土鈴」】



【地元放送局の取材】